

事業名 CD	0110060601	文化ホール管理運営事業
細分化した事業名		文化ホール管理運営事業
事業担当課室 CD	500100	教育課
		整理コード*

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	魅力あふれるまちづくり
	中項目	次代へつなぐ歴史・文化の醸成
	小項目	文化・芸術の振興
関連する個別計画等	社会教育計画	根拠条例等
関連する事業		文化ホール設置、管理及び使用料条例

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	峡北圏域住民の芸術文化活動の中心的施設として地域文化の創造と発展に寄与し、さらには、先人たちから受け継いだ伝統文化を次代に引き継ぐべき拠点として建設された葦崎市文化ホールの管理及び運営を行う。
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	葦崎市文化ホール指定管理者
これまでの改善経過	①大ホール・小ホールの舞台装置改修（年次計画による） ②建物外部保全工事（H17） ③指定管理者制度・ネーミングライツ導入における調査、研究、準備 ④H18より指定管理者（武田の里文化振興協会） ⑤H18よりネーミングライツを導入し、名称を東京エレクトロン葦崎文化ホールとする。（企業名：東京エレクトロンAT）
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	〈実施・運営方法〉 <input type="checkbox"/> 市 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他（ 指定管理者による施設管理及び運営
事業の成果 (どのような状態にしたのか) (どのような効果を得るのか)	市民はもとより峡北圏域住民に広く親しまれる文化ホールとして多種多様な芸術文化の提供及び育成、歴史文化継承等の支援を行うため、施設の管理及び効率的な運営を目指す。低コスト経営で利用者にとって大きな効果を得ることができる運営を目指す。

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		19 年度	20 年度	21 年度
A	事業費 (千円)	78,000	70,000	74,000
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	市債			
	その他			
	一般財源	78,000	70,000	74,000
B	担当職員数(非常勤   職員 E) (人)	0.16		0.20
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)	1,104	0	1,365
D	総事業費(A+C) (千円)	79,104	70,000	75,365
*参考	H21)市民1人当りの事業コスト	2,350 円	H21)市民1人当りの行政サービス費用	579,596 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。  
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、19年度(6,901千円)、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)を使用しています。  
 注3)一般財源とは使途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

	指標名	指標の算出方法	実績値		
			19年度	20年度	21年度
活動指標	ホール年間利用者数	年間延べ入場者数(人)	75,892	98,397	99,599
	大ホール開館日数	年間(日)	267	264	252
	小ホール開館日数	年間(日)	270	269	266
成果指標	大ホール使用日数	年間(日)	111	107	126
	小ホール使用日数	年間(日)	107	103	121
効率指標	大ホール利用率 (算出式数値)	使用日数/開館日数(%) 126日/252日	41.57	40.50	50.00
	小ホール利用率 (算出式数値)	使用日数/開館日数(%) 121日/266日	39.62	38.30	45.49
	大・小ホール開館1日 当りのコスト (算出式数値)	総事業費/大・小ホール開館日数 (千円) 75,365千円/518日	145.49	131.33	145.49

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input checked="" type="checkbox"/> A 妥当である <input type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 葦崎市文化ホール条例に従い、指定管理者による管理運営を行っている。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 指定管理者の年間計画により管理及び事業が行われている。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input checked="" type="checkbox"/> C 効率的でない 総事業費及び開館1日あたりのコストについては検討が必要である。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化(コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善(実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化(結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化(事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合(他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性(いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 指定管理者の適切な評価を行い、サービス向上とコスト削減に努めるように指導を行う。	(2) 23年度 ネーミングライツ募集内容を検討	(3) 22年度 指定管理者に係るモニタリングの実施 管理チェック機能の強化 管理運営委託料の減額
	21年度の改善計画 現行のとおり		
	21年度の改善結果 計画どおり実行		
課長所見	市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること) 引き続き、民間による指定管理者の導入、命名権の売却を継続する。 平成18年度より指定管理者制度により、武田の里文化振興協会が管理運営を行っている。ホールの利用者数は増加傾向にあるが、今後、指定管理者としてサービス向上とコスト削減に努める。		